

糖尿病・循環器リハエキスパートが教える

# PT・OT・STのための 糖尿病と循環器のリハビリをマスターするセミナー in 横浜

糖尿病は、全身の血管にダメージを与え、足を奪い、視力を奪い、腎臓や心臓や脳を破壊します。神経を犯し、思考まで奪い去ります。本人も気付かぬほどゆっくりと、です。

糖尿病は、数えきれないほど多くの疾患の根源となり、そして多くの疾患の治療を阻害しています。あらゆる病の根底に君臨しているといつてよい糖尿病は、療法士にとって避けては通れない最大最強の敵。療法士なら一度は基礎から徹底的に学ぶ必要があります。

そして、療法士の皆さんならご存知の通り、糖尿病と循環器疾患はかなり密接に関連しています。どちらか一方だけを学ぶことはほとんど不可能です。PTもOTもSTも、どのような領域の療法士も、糖尿病の理解を、そして循環器リハを一体で学ぶことをお勧めします。

## 第1部 10:00～12:30 PT・OT・STが糖尿病を基礎から理解するセミナー

糖尿病は、ほぼ全ての臓器に悪影響を及ぼし、ほぼ全ての治療を阻害します。整形が専門でも、脳卒中が専門でも、糖尿病を理解することを無視できません。

糖尿病は特にリハビリテーションが主戦場とする疾患群(脳卒中や心疾患)に極めて深く影響しています。逆説的に言えば、リハビリテーションが糖尿病から始まる悪循環を断ち切る一つの光明だとも言えるのです。第1部では糖尿病を、病態生理や薬理などの基礎から臨床応用まで幅広く解説します。PTもOTもSTも、全ての領域の療法士が知っておくべき知識が満載です。



Instructor  
阿部 誠也  
湘南藤沢徳洲会病院リハビリテーション室  
理学療法士・糖尿病療養指導士

## 第2部 13:30～16:00 PT・OT・STが循環器リハをマスターするセミナー

全ての医療は呼吸不全、心不全を避けては通れません。リハビリテーションも例外ではありません。どのような領域・病期の療法士でも、PTもOTもSTも、循環器系の理解と管理は前提で、避けて通ることはできません。

第2部では、循環器系の解剖生理、検査や評価の解釈、運動処方や療法の実践、リスク管理に至るまで幅広く解説します。また、2021年に改定された「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン」についても要点を解説します。



Instructor  
小林 直樹  
湘南藤沢徳洲会病院リハビリテーション室理学療法主任・医科学修士・認定理学療法士(循環)、心臓リハビリテーション指導士

### セミナー内容

対象: PT / OT / ST / その他

#### 第1部 糖尿病を基礎から理解するセミナー(10:00～12:30)

- ①糖尿病の診断について知る(血糖値測定の方法(SMBG、CGM、FGM)、そもそもHbA1cとは何か)
- ②慢性高血糖の原因について知る(インスリン抵抗性とは、インスリン分泌が低下する機序とは)
- ③糖尿病の合併症について知る(高血糖が血管に与える影響とは)
- ④糖尿病の薬物療法について知る(スライディングスケール法とは、経口血糖降下薬と注射血糖降下薬(インスリン、GLP-1受容体作動薬)、それぞれの薬剤はどこにどのように働くか)
- ⑤糖尿病の運動療法について知る(運動の急性効果・慢性効果とは、サルコペニアが与える影響とは)
- ⑥最近の話題(経口インスリンの開発、ファスティングなど)
- ⑦質疑応答

#### 第2部 循環器リハをマスターするセミナー(13:30～16:00)

- ①循環器系の解剖生理の概観・病態の理解(心筋梗塞・狭心症・弁膜症・大血管・末梢血管)
- ②循環器系の評価(採血、レントゲン、CT、心電図、エコー、身体所見など)
- ③病態生理からどのようにリスク管理を行うか
- ④安全な運動強度をどのように決めるか(ATとは何か・機器(GPX)が無い場合どうやって評価するか)
- ⑤運動療法やADLの考え方(具体的にどのように指導するのか)
- ⑥最近の話題(フレイル・サルコペニア・認知機能・抑うつ症状)
- ⑦ケースステディー(心筋梗塞などを例として)
- ⑧心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドラインについて
- ⑨質疑応答

日時

2024年6月22日(土) 10:00～16:00(9:30受付開始)

ウイリング横浜 501号室 横浜市港南区上大岡西1-6-1

受講料 13,000 円 (3名以上でお申込みの場合は11,000円/人)



ウイリング横浜

お申し込みは **Webサイト** で賜ります

ナレッジリンク

検索

<https://www.knowledgelinkreha.com>



ナレッジリンクHP